



2022年2月1日

各位

会社名 ラクスル株式会社
 代表者名 代表取締役社長 CEO 松本 恭攝
 (コード: 4384、東証第一部)
 問合せ先 取締役 CFO 永見 世央
 (TEL. 03-6629-4893)

**株式会社ダンボールワンの完全子会社化の完了及び特別利益（段階取得に係る差益）の計上並びに
 連結決算開始に伴う連結業績予想に関するお知らせ**

当社は、2021年12月9日に公表いたしました「株式会社ダンボールワンの追加取得（完全子会社化）に関するお知らせ」のとおり、本日付で株式会社ダンボールワン（以下、「ダンボールワン社」といいます。）の株式を追加取得し、同社を完全子会社化いたしました。これに伴い、2022年7月期第3四半期より、連結決算に移行いたしますので、2022年7月期通期連結業績予想につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

また、当該子会社化に伴い、2022年7月期第3四半期会計期間において、特別利益（段階取得に係る差益）を計上する見通しとなりましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2022年7月期連結業績予想（2021年8月1日～2022年7月31日）

	売上高	営業利益	non-GAAP EBITDA	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
通期	35,600 ～36,600	330 ～380	1,440 ～1,540	△210 ～△160	320 ～370	11.06 ～12.78

(注1) non-GAAP 業績値は、財務会計上の数値（GAAP、日本基準）から非経常項目やその他特定の調整項目を一定のルールに基づいて控除もしくは調整したものです。当社の恒常的な経営成績を理解するために有用な情報と判断しており、当社は non-GAAP ベースで予想値を開示しております。具体的には、株式報酬費用、減価償却費及びのれん償却費を中心に、当社が控除すべきと判断する一過性の利益や損失などを控除もしくは調整しております。

(注2) 2021年7月期は連結決算を行っていないため、対前年増減率は記載しておりません。

2. 連結業績予想の概要

上記の連結業績予想は、ダンボールワン社の連結子会社化に伴い、同社の2022年2月1日から2022年7月31日までの業績予想を織り込んだ数値となっております。

また、期中での連結決算開始に伴い、期首に遡及して連結財務諸表を作成する必要があるため、期首時点で関連会社であったダンボールワン社の2021年8月1日から2022年1月31日における持分法投資損益（のれん償却費相当額を含む）、株式会社ペライチ及びネットスクウェア株式会社の持分法投資損益（のれん償却費相当額を含む）を織り込んでおります。

(注1) 上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

(注2) 今後の見通しにつきましては、同日公表の「2022年7月期通期連結業績予想について」（下記一部抜粋）をご参照下さい。

2022年7月期通期 連結業績予想

- 本日付で買収を完了したダンボールワン社の業績を含めた連結業績予想を開示
- 期初予想及び中長期財務ポリシーである売上総利益30%以上の成長を大きく上回る成長の見込み
- 最重視する財務指標は売上総利益であることは変わらず、利益・CF指標については、営業利益(non-GAAP)からEBITDA(non-GAAP)⁽²⁾に移行

	2022年7月期通期 (2021年8月-2022年7月)		2021年7月期通期 ⁽¹⁾ (2020年8月-2021年7月)	
	連結予想 (新収益認識基準)	2021年12月修正 単体予想 (新収益認識基準)	単体実績 (新収益認識基準)	成長率
売上高	356~366億円	332億円 以上	255.2億円	+39~43%
売上総利益	102~106億円	93億円 以上	70.9億円	+44~49%
売上総利益率	28.7~29.0%	-	27.8%	+0.9~1.2pt
EBITDA (non-GAAP) ⁽²⁾	14.4~15.4億円	-	10.3億円	+40~49%
営業利益 (non-GAAP) ⁽²⁾	10~11億円	10億円 以上	8.3億円	+20~32%
参考指標				
EBITDA マージン	4.0~4.2%	-	4.0%	+0.0~0.2pt
広告宣伝費除く EBITDA (non-GAAP)	43~44億円	-	29.8億円	+44~47%
ROE	4.2~4.8% ⁽³⁾	-	2.3%	+1.9~2.5pt

財務インプリケーション

- 売上総利益**
 - EBITDAマージンを維持しつつ、40%以上の売上総利益成長を継続
 - ダンボールワン社の業績は3Qから貢献開始。2Qは売上総利益成長YoY30%程度で、内製事業の成長も継続
- 売上総利益率**
 - ノバセルの会計基準変更及びダンボールワン社の完全子会社化に伴い、全社売上総利益率は28%台後半に改善
- 広告宣伝費除くEBITDA(non-GAAP)**
 - 広告宣伝費は全額変動費であり、コントロール可能なCFは年々拡大。経済環境次第では更に利益を創出する舵取りも可能
- ROE**
 - 今期は4.5%前後のROEを想定

注
⁽¹⁾2021年7月期以前は連結会計を行っていないため、単体会計の業績、成長率を参考値として記載。以下同様
⁽²⁾EBITDA(non-GAAP)=営業利益+のれん償却費+減価償却費+株式報酬費用
 営業利益(non-GAAP)=営業利益+株式報酬費用
⁽³⁾2022年7月期については連結初年度のため、親会社株主に帰属する当期純利益予想(3.2-3.7億円)を期末の想定自己資本金額で除した数値

2

3. 個別業績予想について

連結業績予想の公表に伴い、今後は連結業績予想のみの開示を予定しておりますため、個別業績予想については取り下げます。

4. 特別利益（段階取得に係る差益）の計上について

ダンボールワン社の子会社化に伴い、従前から保有する同社の持分を追加取得時の時価で再評価することによる評価差益（段階取得に係る差益）として約750百万円を特別利益に計上する見込みです。

以上